

A 61 環境よりの生活者に与える影響と栄養素から考える  
伊藤健研究所  
伊藤秀三郎

目的  
生活環境を侵襲する因子として、今回は騒音を選り、動物(マウス)実験ではあるが、  
栄養素に注目し影響の様相を検討する。

方法  
期日は昭和56年4月17日より6月1日、実験動物には雌雄を用い、飼料は固型飼  
料を充分に与える。

計測は3日目毎とし、飼料摂取量、糞便量、糞便中の蛋白質及び脂質の含有量並びに消  
化吸収率を定める。

実験者は坂本典子、南智子及び林園子で、和洋女子大出身の管理栄養士である。

実験場所は次のようである。

飼育：早大教育体育研究室 計測：和洋女子大栄養生化学実験室

結果  
騒音による影響は存在し、特に目立つことは蛋白質の消化吸収率の亢進である。